

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100206		
法人名	有限会社 熊進企画		
事業所名	グループホーム錦ヶ丘		
所在地	熊本市錦ヶ丘26-11		
自己評価作成日	平成21年8月31日	評価結果市町提出日	平成21年10月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市上通町3-15 ステラ上通4F		
訪問調査日	平成 21年 9月 29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・月に1回は職員全員参加の会議を設け、入居者の個々の問題点や事業所全体の課題点などを話し合い改善できるよう努めている。</p> <p>・1階がデイサービス、3・4階が高齢者住宅と多機能を活かし合同での行事を開催したり、地域のボランティアの方の協力の下、外出行事を執行し入居者の方が気分転換を図られるよう計画を立てている。</p> <p>・昨年より、ご家族への運営推進会議の案内書に、お一人おひとりの写真や近状のコメントを入れたり新聞の発行を行ない、より生活状況がわかるように取り組んでいる。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設3年目を迎えホーム全体の落ち着きを感じさせる。職員の休憩時間を確保することで、心身ともにリフレッシュした仕事ができる体制がある。また一方では、職員の異動がないことで、入居者や家族への信頼関係も法人として支援されてもいる。同一建物内には高齢者専用賃貸住宅が併設されているため、夜間の緊急体制も複数の職員の応援が可能となっている。法人全体での季節行事やボランティア訪問時の交流を図ることができる点は、ホームとしてもメリットが大きいと思われる。今後は建物の構造上からも入居者の身体状況からも外出の機会が少なくなることが予想されるため、散歩や日常の買い物などをとおして地域との関わりを深めながら個別対応での支援が期待される。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりがが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に理念の唱和を行ない、各自入居者が行ないたいことを大切に行動できるように一人ひとりの生活を話し合っている。	法人の基本理念とグループホームの理念は毎朝申し送り時に唱和し、理念の徹底を図るための努力をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の話し合いやサロンの手伝いも行っており、年2回の清掃活動や祭りへの参加・協賛を行なっている。今年度より校区の中学校の職場体験を受け入れるようになった。	交流サロンの運営委員会には管理者が出席し、地域の行事や清掃活動に参加をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティア会議や交流サロンの手伝いを通じて行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事報告や予定の案内、入居者の方の状況を常に報告している。外部評価の結果や取組状況を報告し助言を頂いている。また家族からの不安な点や意見も積極的に発言してもらいサービスの向上に努めている。	2ヶ月毎に開催し、入居者の状況報告や行事計画・実施報告等を行なっている。外部評価や食中毒・感染症の予防・介護保険改正など、時期に応じた協議内容で、全ての家族にも案内するようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	わからない点があれば積極的に市の担当者に聞くようにしている。また入居者の方の認定更新の機会や地域の会議の時に保健師と情報交換を持っている。	市担当者には包括支援の方を通して、要望を伝えたり情報を得るようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に1回は研修の機会を設けている。また日々のケアの中で拘束にあたるか否かを職員間で話し合いを持っており身体拘束にならないよう心がけている。	法人内研修で身体拘束に関する研修会を実施しており、職員は身体拘束となる行為についての認識はしている。また、ホームでも職員間で話し合い、身体拘束のないよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を通じて学び月1回のミーティングの中で話しあう機会を取っている。現在は特に言葉使いについて話し合い精神的虐待にならないよう心がけている。		

グループホーム 錦ヶ丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修への参加を通じて理解を深めるよう努力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営推進会議での改定時にはお知らせを行わない、家族にも個別にて説明を行ない十分に理解できるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが、なかなか活用がされていない。家族や利用者とは、なんでも話せる雰囲気作りを行なっている。意見・要望は運営推進会議にて公表しサービスなどに活かしている。	面会時や電話で状況を報告し、要望が言いやすい雰囲気作りを心がけている。出された意見は申し送りノートに記載し、職員間で共有できるようにしている。	家族同士でも意見交換や悩み等が共有できるよう、家族会など場の支援をされることも望まれます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングや上司を交えたミーティングの機会を設け職員の意見を聞けるようにしている。	毎月の会議では職員の意見を管理者が集約し、ホーム内での共有化を図っている。また、ホーム内で解決できないことも、管理者から法人代表へ伝えるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はホームにも頻繁に足を運んでおり職員とのコミュニケーションも図られ勤務状況も把握されている。その中で職員の意見も十分に聞き入れ、お互いに納得しながら仕事ができおり能力の判断もなされている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な社内研修の開催があっている。外部研修案内も職員全員が見ることができる。また資格取得の為の研修には参加できるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループの施設やグループホームとの交流の機会作りを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に要望や不安点について聞き取り安心して入居できるよう配慮している。入居後も声かけ会話を十分に行い安心した生活環境が築かれるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には数回の面談や連絡を重ね、入居に関する不安の除去に努めている。入居後には生活の様子を報告し安心して頂けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状の生活や心身・家族の状況を聞き、他のサービスの案内を行ったり対応できる手段等の検討を行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人との会話や家族からの情報の中で得意分野を見出し、積極的な活動を行なってもらっている。家事などの分担作業を行なっている。また悩みや不安には共感できる姿勢を保っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も参加できる行事を案内し、本人と交流を深められる機会を増やしている。家族の不安や悩みも必ず聞くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時には会話ができるよう場所の配慮を行なっている。また行きつけだった美容室などには継続して通えるよう家族にも支援して頂き行なっている。	散歩時に声をかけたり、家族間でもお礼の電話をかけるような関係を支援している。友人からの訪問時にも、継続した訪問を依頼している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶の時間など声を入居者同士でかけあう姿が見られている。コミュニケーションが図られている時の空間を大切にしている。また入居者同士で場所を教えあったり体調を気遣ったり相談しあったりする場面も見られている。		

グループホーム 錦ヶ丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された家族より時々、相談や現状の報告がされており、できるだけ助言できるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりが、どう暮らしたいか本人や家族より聞き取りを行ない本人が行ないたいことを見守り支援しながらケアにあたっている。困難な場合は家族も交え十分に話し合い本人の言葉や表情からその真意を探り検討を行っている。	入居者自身をはじめ家族からも希望を聞き取り、入居前の生活を継続して支援出来るよう努めている。意思表示が困難な方にも家族と相談したり日常の会話や表情から把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族と面談を通して入居前の生活を把握し、家庭での生活パターンが継続できるような職員同士で話し合い実践できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族や入居者の意向を基に、計画作成担当者が作成している。定期的なカンファレンスやモニタリングを行い、現状に即した計画の見直しも行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族とも十分に話し合い計画作成に努めており、評価に基づき職員間にてサービス内容の検討や変更・継続の有無をカンファレンスにて行っている	家族や入居者の意向をもとに計画作成担当者が作成している。定期的なカンファレンスやモニタリングを行い、現状に即した計画の見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画のサービス内容に基づいた個別記録を行っている。より計画の見直しがスムーズにできるようになっている。職員の思ったことを書く欄もあり気づきや工夫を記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1階はデイサービス、3・4階は高齢者専用賃貸住宅であり年に数回の合同行事を計画し実践し交流の場を作っている。		

グループホーム 錦ヶ丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	様々な行事には校区のボランティア会の協力を得て事故のないよう配慮を行なっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に本人・家族の意向を聞き、医師に継続した医療を行なってもらっている。また、病状の悪化時などには医療との連携により早期発見・対処に努めている。	入居者や家族が希望するかかりつけ医への通院支援や、医師の往診による適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の中で看護職との情報交換を密に行ない処置が必要な場合には看護職に観察及び処置を行ってもらっている。常日頃より早期発見・対処ができるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院期間中は治療の経過を家族や病院と連携し情報交換を行っている。退院可能な段階になったら相談を行ない早めの受入れを行なえるよう準備している。日頃、受診時には看護師と情報交換を行ない日頃の状態を把握してもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後、起こりうる体調の変化などは家族と話し合いながら対応している。また夜間の職員の体制状況などを説明し理解を得ている。	契約時に重度化した場合の医療連携について説明している。終末期の指針も作成しており、場合に応じて家族や医師・職員が話し合うこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急蘇生法やAEDの取り扱い方法の勉強会を定期的に行なっている。また緊急時の連絡方法なども周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防火訓練を実施しており非難誘導法を日々の中で話し合っている。夜間の緊急連絡体制などを確保している。	同一建物内のデイサービスや高齢者専用賃貸住宅と、入居者も交えて合同の避難訓練を実施している。各事業所との連携体制も整備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応方法について毎月のミーティングの中で話し合い注意しあい一人ひとりの性格などに合わせた言葉かけを確認・検討している。また個別的な指導も行なっている。	一人ひとりのプライバシーに配慮した対応を心がけ、毎月の会議でも話し合い人格を尊重した言葉づかいを行うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事や外出などでは内容を説明し自己決定してもらうようにしている。何事も職員間で決めてしまわずに入居者に尋ね要望取り入れるよう工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活歴・パターンを把握し、その日の体調に合わせた生活が送れるようにしている。居室などにて、ゆっくり過ごす時間も大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に洋服は選んでもらうが毎日、同じ洋服にならないよう配慮したり汚染したら、すぐに更衣したりしている。また外出や行事の時は特に、その方らしい身だしなみができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方には一緒に調理や盛り付け・後片付けを行ってもらっている。食べたいメニューや嗜好調査を行ない食事が楽しみの一つになるように努めている。	管理栄養士によって立てられた献立で朝・昼食はホームで作っている。嗜好調査も実施し、入居者の好みも反映できるよう努めている。	入居者と献立を立てたり、食材の買物をするなど地域とのふれあいにつながる支援を図ると共に、グループホームの機能を活かした食事が楽しめるような取り組みが期待されます。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	治療食や刻み・ミキサー食と多様な対応に努めている。毎回の食事量チェックを行ない体重の増減把握も行なっている。また水分チェックも必要に応じて実施し水分不足にならないよう注意している。なるべく自力摂取できるように働きかけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一部介助・全介助と一人ひとりに応じた対応を毎食後には必ず行っており、定期的な口腔チェック・咀嚼状況に応じて歯科受診につなげたりしている。		

グループホーム 錦ヶ丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンチェックを必要に応じて活用し排泄パターンの把握を行ない時間・表情などにて声かけ・誘導を行ないトイレ排泄ができるよう努めている。実施することにより排泄用品の使用減につながっている。	必要に応じて排泄チェックシートを活用しているが、時間や表情を見計らった誘導を行うことで、出来る限り自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養士や必要に応じて、かかりつけ医と相談している。水分チェックにて不足しないよう心がけ、乳製品を多く取り入れたり適度な運動などを行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴希望時には、できるだけ入浴していただけるよう配慮している。また季節に応じて浴室の飾りつけなどを行なったりしている。	入居者の希望に柔軟に対応している。入浴拒否の方には無理強いせず、家族の協力や言葉かけで出来る限り清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動型の方や、時間に応じて臥床される方など本人の意志を尊重している。夜間も見たいテレビがある時は視聴できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋に基づき、その効能・副作用の把握を行なっている。変更時や臨時処方時も同様に把握し申し送りノートの活用により周知徹底を行なっている。また服薬時には必ず職員2人にて確認を行ない誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体調や本人の対応状況に応じた家事などの役割を持ってもらっている。趣味活動や貼り絵・ゲーム活動などを積極的に行なってもらっておりビールの嗜好の方には飲んでもらえるよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日に散歩や買い物などの要望には体調・気候に合わせて外出支援を行なっている。またボランティアの協力も得て季節ごとの外出行事を行い季節が味わえるよう配慮している。	周辺の散歩や買い物には入居者の体調に合わせて支援をしている。デイサービスで音楽会やカラオケなどの催し時には、おしゃれをして出かけるように支援している。	日常的な散歩や買い物などの外出を、日課として位置づけるような職員体制が期待されます。

グループホーム 錦ヶ丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金の中で必要に応じて支払いを行なっている。買い物時に一緒に支払いを行ない、預かり金があることを理解してもらい安心感に結び付けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族やなじみの方からの手紙や贈り物があつた時は本人と一緒に電話をかけ、本人にも会話ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じてもらえるようなインテリアに努めるが最小限の飾りにし、落ち着ける雰囲気心がけている。また夕日や反射日光などが不快にならないようカーテンなどで調節を行ない室温も入居者に合わせた調節を行っている。職員が大きな音をたてないよう配慮している	日差しはカーテンで調整、室温も入居者に合わせるよう配慮している。リビングのソファで入居者同士がテレビを見たり、電子ピアノで音楽を楽しむような空間作りをしている。	ベランダや廊下の隅など、居室以外で入居者が一人でゆっくり過ごせるスペース作りも望まれます。またトイレの換気や消臭対策も配慮されることが期待されます。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの窓辺やベランダに椅子を置き、リビング・食卓・カウンター席などで自由にくつろげるよう配慮している。本人の意志で座られ、くつろぐ姿が見られる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具などは使い慣れた物を持ち込んで頂き、家族・入居者と一緒に部屋のレイアウトを行なっている。入居中も安全性や居心地を確認し家具やベッドの移動時には本人・ご家族共に話し合い確認を取ってから実行している	使い慣れた机やタンス・椅子などの持込、十分な収納スペース、清潔な寝具への配慮など、快適な居室環境が支援されている。家具などの配置では家族や入居者とも相談しながら、入居者本位の支援に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札をつけ、トイレや浴室にもわかるよう掲示を行なっている。洗剤や薬品は鍵のかかる倉庫などに保管し事故のないよう配慮している。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	52	トイレ内の換気や消臭対策	トイレ内の臭いを無くす。	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレ内に汚物は置かない。 ・壁や小物などの清掃強化。 ・ゴミなども小まめに外のゴミ箱に捨てる。 	12ヶ月
2	49	日常的な散歩や買い物などの外出が日課としてできていない。	散歩や買い物などの外出を日課の中に取り入れる。	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩の回数を増やし日課とする。 ・買い物の曜日と担当者を決め、定期的に行く。 	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。